



国際交流ひろば

1

月号

KAGOSHIMA INTERNATIONAL ASSOCIATION NEWS

VOL. 252/ January 2022

「外国人住民のための防災ハンドブック (やさしい日本語版)」

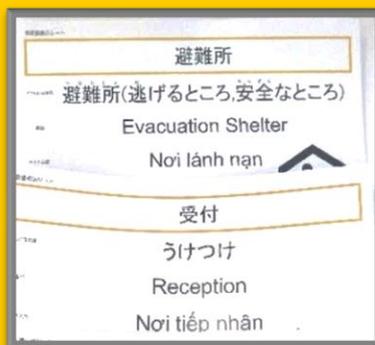
「多言語表示シート・指さしボード」

が 出来ました！！

「外国人住民のための
防災ハンドブック」



当協会 HP で公開中！
QR コードからご確認ください



「多言語表示シート・
指さしボード」



災害の準備と対応についてかかれた「外国人住民のためのハンドブック(やさしい日本語版)」と避難所等で使われる言葉を多言語でまとめた「多言語表示シート・指さしボード」(やさしい日本語・英語・ベトナム語・中国語・ポルトガル語対応)を作成しました。当協会のホームページ上に掲載してありますので、災害への備えや避難所運営等にご活用ください。

中国語ランチタイムトーク のご案内

11月から再開した中国語ランチタイムトークについて今年度(1月～3月)の開講日をお知らせします。今年度は、鹿児島大学の中国人留学生が講師を務めます。一緒におしゃべりを楽しみませんか？

1/ 18(火)

2/ 8(火)

3/ 8(火)

23(日)

20(日)

20(日)

時間: 12:00～12:45

講師: 賀 芋さん(火曜日), 孟 卓然さん(日曜日)

会場: かがしま県民交流センター1階 会議室 A(売店前)

定員: 15名(先着順, 要事前申込み)

【申込み先】 (公財) 鹿児島県国際交流協会 TEL:099-221-6620

鹿児島で世界を語ろう！ 第27回 外国人による 日本語スピーチコンテスト 観覧者募集中

2022年 1月 29日(土)

13:30～16:30 (開場 13:00)

かがしま県民交流センター1階 県民ホール

観覧希望の方は、氏名・住所・電話番号を
Email か FAX または TEL にて、当協会まで
お申し込みください。

【申込み先】

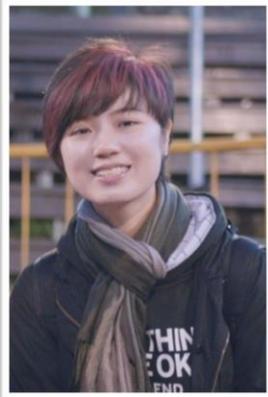
(公財) 鹿児島県国際交流協会

TEL:099-221-6620 FAX:099-221-6643

Email: kia5@kiaweb.or.jp

「Kagoshima で暮らして」

鹿児島県の在住外国人の数は、年々増加傾向にあります。『国際交流ひろば』では、鹿児島で頑張る在住外国人の鹿児島での暮らし等についてご紹介しています。今回は、9月に来日したばかりのシンガポール出身鹿児島県国際交流員 王 怡敏(ウォン イミン)さん にお話をうかがいました。



鹿児島県国際交流員
王 怡敏(ウォン イミン)さん

鹿児島は初めてなんです。

—はい、鹿児島に来ることができて嬉しく思っています。都市国家のシンガポールに比べて、とても豊かな自然に囲まれていて、空は青く澄んでいて、どこからでもきれいな桜島の姿を見ることができるので、

とても喜んでいます。

実は、国際交流員としての採用決定は昨年だったのですが、新型コロナウイルスの影響で着任を1年延期されました。もし延期されていなかったら、昨年はまだ鹿児島県には前任者がいたので、ここには配属されていなかったでしょう。鹿児島との縁を感じています。

シンガポールという国について教えてください。

—シンガポールは、鹿児島市より少し大きい面積の国ですが、人口は、鹿児島市の約10倍で、人口密度でいえば、東京都よりも高いです。その中に、中華系やマレー系、インド系等の民族が存在する多民族国家です。ですから、様々な言語や文化、伝統等が共存しています。



私は、民族的には中華系で、父方の祖父母が中国の海南島出身でした。ちなみに、シンガポール料理で有名な「海南チキンライス」は、その名のとおり海南島から伝わったものです。また「ホッケンミー」という麺料理がありますが、それは、中国の福建省の料理が由来になっています。「ホッケン」は中国福建地域を指す福建語の呼び方です。「ミー」は、マレー語の「麺」という意味です。このように、食文化も色々なところから入っていて、その呼び名も様々な国の言葉が融合されていたりします。日常的にも英語とその他の言葉が合わさった「シングリッシュ」と呼ばれる独特の言葉をよく使います。多民族国家だからこそ、このような言葉が生まれるんだと思います。シンガポールに来たら、きっと面白い体験がたくさんできると思いますよ。

日本や日本語に興味を持ったのはどうしてですか？

—日本のアニメがきっかけです。私の時代は、ポケモンが人気でし

たね。「アニメの内容を日本語で理解したい」という気持ちから日本語に興味を持ち始め、その後、大学の副専攻で日本語を学び始めました。そこでは、韓国語やドイツ語など色々な言語から選ぶことができましたが、当時は日本語が一番人気でした。

国際交流員を志したのはなぜですか？

—私は人に興味があり、大学時代に心理学を専攻しました。また、日本語を学ぶことで、言語と文化のつながりの面白さにも気づきました。国際交流員は、日本語や日本文化に触れられるだけでなく、色々な人にも出会え、新しい経験ができると思い志望しました。

これまでのところ、鹿児島での生活はどうか？

—鹿児島は意外と寒いんですね。シンガポールの平均気温は30℃程で、ほぼ1年間「夏」です。それに慣れていたので、着任以来の生活は私にとって大きな変化です。ダウンジャケットを買って防寒の準備をしています。周りの人からは「まだまだ寒くなるよ」と言われるので怖いんですね(笑)。

鹿児島弁には、まだ慣れていませんが、イントネーションが歌のように感じられ、とても聞きやすいと思います。これから意味も理解できるように頑張ります。

鹿児島でやってみたいことはありますか？

—私の趣味は、写真と手芸なんです。折り鶴をモチーフにしたペンダントなどを作って売ったこともあります。なので、鹿児島の豊かな自然の写真を撮りたいですし、地元の工芸品を手作りするような体験もしてみたいです。



イミンさん手作りの
折り鶴をモチーフにしたペンダント

実は、仕事で屋久島に行く予定があるのですが、そ

こで屋久杉を使ってお箸を作るんです。今からとても楽しみです。

あとは、鹿児島では美味しいラーメンが、シンガポールよりも安く食べられるので、とても嬉しいです。私は、麺料理が大好きなので、色々なラーメン店を巡ってみたいですね。

県民のみなさんへメッセージをお願いします。

—まだまだわからないことが多いですし、日本語も勉強中ですが、親切な鹿児島のみなさんに感謝の気持ちをもって、頑張りたいと思っています。鹿児島のみなさん、これからどうぞよろしく願いいたします！

霧島市国際交流
協会からのお知らせ

「国際交流 ボウリング大会」

定員 30名

※募集締切日 1/14
(定員に達し次第、締切ます)

日時: 令和4年 1月 28日(金) 18:30~20:30(受付開始 18:00)

場所: 国分スターレーン(霧島市国分野口北1-1617-1)

【問合せ・申込先】 霧島市国際交流協会(TEL:0995-45-5111)

※電話もしくは上記協会ホームページよりお申込ください。

※参加費や注意事項
については、詳細
をご確認ください

詳細はこちら



「かごしまから見える世界」 vol.6

かつてから外国との交流が盛んだった鹿児島。鹿児島に居ながらにして世界を感じられる場所をご紹介します。
今回は、南さつま市坊津をご紹介します。

鹿児島県本土西南端の港町、南さつま市坊津。鹿児島市から車で約1時間、急峻な峠道を越えると、眼前にリアス海岸の美しい景観が広がる。中国・明代の軍事書「武備志」に、「花旭塔津（はかたつ）＝筑前の博多」「洞津（あなつ）＝伊勢の安濃津」と並び、商船の集まる港として、いわゆる「日本三津」の一つと紹介されている歴史的港湾である。今回は、師走ながら麗らかによく晴れた一日、複雑に起伏する海岸線とまぶしく輝く入り江に彩られた坊津に、中国や東アジアとの交流の跡を訪ねた。

〔輝津館訪問〕



最初に訪れたのは、坊津歴史資料センター輝津館（きしんかん）。南さつま市教育委員会生涯学習課の橋口亘さんの御案内で館内を巡る。まずは先述の武備志に描かれた当時の九州の地図（複製）の展示に見入ると、明時代の中国で作られた地図に既に薩摩の港として「坊津港、泊津港、久志港、秋目港」が大きく記載されている。まさに中国との海上交通の一大拠点であったことがよくわかる。橋口さんの御説明によると、江戸時代製作の「薩摩國絵図」には、坊津について「何風ニても船繋り自由（どんな方角から風が吹いても、船の係留が自由である）」と記されているようだ。これらのことから、坊津（特に坊浦）が東アジアを行き交う船から重要視されたのは、九州（鹿児島）本土の最西南端に位置すること、及びどんな風でも碇泊できる安全な港であったことが大きいと橋口さん。また、中世港湾としての坊津のもう一つの特徴は、当時の対外輸出品である硫黄を産出する硫黄島（鹿児島郡三島村）に近いということも挙げられる。硫黄は、もちろん火薬の原材料の一つであり、主に中国（明、唐）との交易品であった。館内にはその三島産の硫黄片の写真も展示されており、あてやかな薄い黄色が印象的だ。

〔唐人と坊津の人々〕

輝津館を出ると目の前は坊浦、そしてその湾口付近に、海から天へ向かって剣のようにそびえ立つ2つの岩「双剣石」が見える。唐人の命名とも伝えられている。

また、輝津館から500mほど南の国道226号沿い（中坊集落）には、江戸時代後期の唐船（清船）の沈没事件に絡む慰霊碑「沈溺諸霊塔（ちんできしりょうとう）」がある。1808年、中国を発した船が遭難・漂流し、坊津に吹き寄せられると、俄に大風が起り、船は砕かれ、沈没。海に投げ出された船員たちを救おうと坊津の人たちが必死に救助にあたるも、乗組員90人中61人は溺死する。その唐人たちの慰霊のために、後の1839年に建立されたとある。なお、半死半生の状態で坊津の人々に救助された29人は、後に日本船で長崎へ回送、唐船で帰国の途についたという。

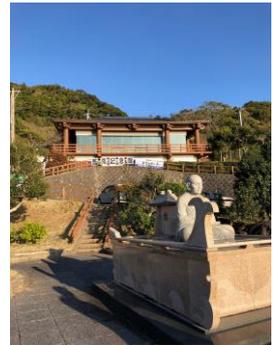
久志の博多浦地区にはかつて唐人の住む地域があり、唐人町と呼ばれていた。私たちはその地にあるという唐人墓を目指したが、なかなか見つからない。偶然通りかかった女性に尋ねると細い道の奥だという。言われて奥まで行ってまた迷っていると、先ほどの女性が我々を追い抜いて行って小高い丘の上を指さす。見上げると、古そうな石垣に沿う細い坂道の頂上にそれはあった。木々の茂る丘の頂上には、古い墓石の唐人墓1基と並んで、地元の人たちが建てた「唐人墓跡」の石碑が立ち、墓前にはみずみずしい花が供えられていた。案内してくれた女性や地元の人達にとっては、「唐人たち」

は、今でもとても近い隣人であるのかもしれない。

また、この坊津には「唐人」の名を関する食べ物がある。「唐人巻（とじんまっ）」。米と小豆を混ぜるなどしてダンチクの葉で三角にくり込み、蒸し上げたおにぎり様のもの。薄い塩気があり、ほのぼのとした味だ。中華圏の粽子（ツォンズ）にそっくりで、元は中国がルーツと見られる。久志の地元商店で自家製造のものが販売されている。

〔鑑真大和上の一歩〕

坊津と中国の繋がりで忘れてならないのが、唐の高僧鑑真大和上の到着。遣唐使船で入唐した日本僧からの強い招請を受けて、幾度も日本への渡海を試み、失明の苦難にも挫けず、ついに6度の挑戦の後、753年12月20日、坊津の秋目浦にたどり着いた。その後、鑑真は日本の仏教の戒律を厳しく正すとともに、芸術、建築、医薬学など幅広い分野で唐からの先進文物をもたらした。現在、その秋目浦を臨む高台に鑑真記念館が建ち、館の前には鑑真大和上の座像が海に向いて静かに座っている。



記念館の小田睦夫館長によれば、毎年12月20日には、東大寺、唐招提寺、興福寺から日本の仏教界の最高峰の方々が記念館に集い、鑑真大和上の遺徳を偲ぶ会を催すという。例年であれば地元の人達も含めて館内は立錐の余地もない参加者で、入りきれずに屋外で参列する人達にも拡声器で実況するという。

また、記念館横の敷地には、日中交流の原点とも言えるべき鑑真大和上の功績を偲んで、初代の駐日中国大使の陳楚大使以降、中国高官たちが来訪の折り記念の植樹を行ってきており、その樹木たちが緑の葉を拡げている。

〔沈む夕日の海〕

さて、そろそろ坊津探訪の一日も終わり近くなり、あたりに見事な夕日の赤が満ちてきた。水平線近くがまぶしい西の海を向いて座る大和上の石像は、その開かぬ目で何を見、何を思っているのか。遠く彼方の中国への望郷か、あるいは、航海の途中で無念の死を遂げた幾多の者たちへの鎮魂か。否、大和上は海を隔てて一衣帯水の間柄の日中両国の友好と平和をお祈りされていると私は確信しつつ、坊津を後にした。



（取材協力：坊津歴史資料センター輝津館、鑑真記念館）

〔坊津とブラジル〕

坊津は台風の常襲地帯で、常にその被害により生活を脅かされてきた。困窮した人達は、ついに海を越えて移住の大冒険に踏み切り、明治41年第1回移民船笠戸丸で、坊津から50数名がブラジルへと渡った。爾来、昭和15年まで、坊津町から600人近くが渡航しており、県内第2位の人数となっている。現在、地元ではブラジルふるさと会を組織して現地訪問や移住者子弟らとの交流を続けており、その歴史、活動ぶりを輝津館2階で常設展示している。



鹿児島 JICA 派遣専門家連絡会による、市民公開講座の開催が決定しました！
 今回は、「太平洋の南の島における環境問題～放置車問題から考える～」と題し、鹿児島県立短期大学学長の塩地洋氏にご講演頂きます。

世界との距離がぐっと近づいている昨今、大洋州の島国が抱える課題もきっと、私たちの暮らしと深い繋がりがあるはず。皆さんと一緒に、地球の環境について、想いを巡らせてみませんか？お気軽にご参加ください！

参加料無料

「太平洋の南の島における環境問題～放置車問題から考える～」



1月22日(土)15:30～17:00

会場：鹿児島市国際交流センター1F 多目的ホール
 (鹿児島市 甲東中学校前電停/バス停すぐ)

*Zoom ウェビナーでも視聴可能です！
 ID：990 0379 7516



講師

塩地 洋 氏

鹿児島県立短期大学学長



〔問合せ先〕

鹿児島県 JICA 派遣専門家連絡会事務局

TEL：099-275-6853

JICA デスク鹿児島 担当:仮屋

TEL:099-221-6624 (公財)鹿児島県国際交流協会内



県内各市町村および国際交流協会主催・共催の国際交流に関する
イベント情報等がございましたらお寄せください。

※ただし、掲載条件等がございますので、詳細についてはお問合せください。

がいこくじんそうごうそうだんまどぐち
外国人総合相談窓口

鹿児島にお住まいの外国人の方のための相談窓口です。生活、在留資格、労働、医療、福祉などで困ったことがありましたら、お気軽にご相談ください。

対応言語：日本語/英語/中国語/韓国語/ベトナム語/タガログ語/インドネシア語/ネパール語/クメール語/タイ語/ミャンマー語/ポルトガル語/スペイン語/マレー語/フランス語/ロシア語/ドイツ語/イタリア語/モンゴル語/シンハラ語/ヒンディー語/ベンガル語

鹿児島県国際交流協会内

TEL：070-7662-4541

E-mail：kiasoudan@gmail.com



Facebook



本誌・掲載内容に関する問合せ・申込み先

公益財団法人鹿児島県国際交流協会
 (火曜～日曜 9:00～17:00)

〒892-0816 鹿児島市山下町14-50

かごしま県民交流センター1階

Tel: 099-221-6620 Fax: 099-221-6643

URL: <https://www.kiaweb.or.jp/>

Email: kia@kiaweb.or.jp

Facebook: <https://www.facebook.com/Kagoshima.Intl.Assoc>

「国際交流ひろば」は、ホームページにも毎月掲載しています。ご自由にダウンロードしてください。